

令和元年 12 月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和元年 12 月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

台風 19 号による被害で、10 月中旬から運休していた JR 八戸線の階上-久慈間の運転が 12 月 1 日（日）から再開されました。

また、運転を見合わせていた八戸-久慈間のレストラン列車「TOHOKU EMOTION」は 12 月 13 日（金）から、臨時列車「リゾートうみねこ」は 12 月 14 日（土）から運転が再開される予定です。

八戸にお越しの際は、再開した JR 八戸線に乗って、美しい三陸の景観を眺めながら列車での旅をお楽しみください。

◆ 「TOHOKU EMOTION」 <https://www.jreast.co.jp/tohokuemotion/home.html>

◆ 「リゾートうみねこ」 <https://www.jr-morioka.com/noccha/train/umineko/>

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館 5 階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 入戸12月号 レポート

令和元年11月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	青森県が香港の旅行会社招き観光地視察ツアー開催
(2)	田中復興相 青森県入り 八戸市が復興関連事業への財政支援継続を要望
(3)	「シニアカフェ」スタート 八戸市が高齢者の集いの場創出へ
(4)	蕪島地区の物産販売施設 愛称は「かぶーにゃ」に決定

## 【産業】

記事	概要
(5)	しんぼり 南部せんべい×サバの「塩焼さばせんべい」開発
(6)	サバづくしの大規模イベント「鯖サミット2019in八戸」開催
(7)	しみず食品×「実験道場」 じゃ焼き新商品「八戸名物☆実験どらねこ」発売
(8)	インターネット通販サイト「47CLUB」全国大会 オフィス・カワムラが最優秀賞
(9)	新東北みやげコンテスト 味の海翁堂の「いちご煮炊き込みご飯」が優秀賞
(10)	やっと来た！ 大中型巻き網船団 サバの水揚げ1827トン
(11)	はちのハワイナリー 新作ワイン3種発売

## 【地域】

記事	概要
(12)	「TEPIAロボットグランプリ」 工大二付属中の1年生が初挑戦で努力賞
(13)	火災から4年の蕪嶋神社 来年1月新社殿で神事
(14)	絶滅危惧類の「ムラサキ」 八戸公園で種の収穫作業
(15)	八戸工業高3年の11人 金属熱処理2級に全員合格
(16)	人気イベント「種差朝ヨガ」 通年化を模索

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	全日本剛柔流空手道選手権 漆畑さん（旭ヶ丘小）が頂点
(18)	～「えんぶり」の記録 次世代に～ 各えんぶり組の歴史、特色などの調査を開始
(19)	元鮫中校長の木村久夫さんが「八戸聞見録の謎」自費出版
(20)	2025年国民スポーツ大会冬季大会 青森県が受け入れ表明

【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>青森県が香港の旅行会社招き観光地視察ツアー開催</b></p> <p>香港からの誘客促進に向け、青森県は11月11～13の3日間、香港の旅行会社を招いた観光地視察ツアーを開催した。香港の旅行会社6社の幹部や関係者ら計10人が参加。12日に奥入瀬溪流や十和田湖、弘前公園などを見学し、13日には種差天然芝生地の周辺を視察した後、八戸酒造に移動。歴史を感じさせる酒蔵の雰囲気感触、「八仙」ブランドの日本酒を試飲した。参加者からは好感触の声が聞かれた一方、「香港では青森県のプロモーションが少ない」とし、情報発信の強化を促す声もあった。</p>
(2)	<p><b>田中復興相 青森県入り 八戸市が復興関連事業への財政支援継続を要望</b></p> <p>田中和徳復興相が11月13日、就任後に初めて青森県入りした。八戸市の多賀多目的運動場で東日本大震災からの復興状況を視察し、大平透副市長から震災時の状況や復興状況に関する説明を受けた。市側は田中氏に対し、国が2020年度までと定めた復興期間後も復興関連事業への財政支援を継続するよう要望した。今回の視察は、洋野町や久慈市、野田村などでも行われた。</p>
(3)	<p><b>「シニアカフェ」スタート 八戸市が高齢者の集いの場創出へ</b></p> <p>八戸市は、高齢者が生きがいを持って生活できる地域づくりに向け、誰もが気軽に集まり交流できる場「まちなかシニアカフェ」を三日町の「はっち」で11月14日にスタートさせた。オープニングとなったこの日は、高齢者や福祉関係者ら約250人が来場。「高齢者の食の見本市」と称し、青森県栄養士会によるミニ講和や、高齢者が食べやすいように調理をした宅配弁当の試食の他、移動スーパー「とくし丸」などの展示が行われた。今後も毎月1回、講和や料理教室、体操教室などさまざまな内容を盛り込みながら高齢者の集いの場創出のモデルケースとして取り組みを展開する。</p>
(4)	<p><b>蕪島地区の物産販売施設 愛称は「かぶーにゃ」に決定</b></p> <p>2020年4月にオープン予定の蕪島地区の物産販売施設について、八戸市は11月21日、愛称を「かぶーにゃ」にすると発表した。愛称は8～9月に公募し、全国から453件の応募があった。蕪島のイメージにふさわしく、市民や観光客の親しみやすさを基準に選考。最優秀作品として、同市在住の中屋敷均さんの応募作品を選んだ。施設は東日本大震災からの復興関連で、2011年度にスタートした「蕪島エントランス整備事業」の一つ。完成により一連の事業も完了する見通しである。</p>

【産業】

記事	概要
(5)	<p><b>しんぼり 南部せんべい×サバの「塩焼さばせんべい」開発</b></p> <p>菓子製造販売・卸業「しんぼり」（八戸市）が南部せんべいとサバを組み合わせた新商品「塩焼さばせんべい」を開発した。サバフレークとサバの水煮を混ぜたことで、魚の臭みを消しながらも、しっかりとしたサバの風味を味わえるのが特徴。煎餅は食べやすいように一口サイズになっている。価格は380円（税抜き）。八食センター内のしんぼり直営店で販売している。</p>

<p>(6)</p>	<p><b>サバづくしの大規模イベント「鯖サミット2019in八戸」開催</b></p> <p>サバがテーマの食の祭典「鯖サミット2019in八戸」が11月2～3日、八食センターで開催された。通算6回目で東北・北海道では初開催。全国の主要産地など11都府県とノルウェーから水産加工会社などが32のブースを出店、県内外から訪れた大勢の来場者で終日にぎわった。また、同イベント内で第13回八戸前沖さばアイデア料理コンテストの審査結果も発表され、サバ缶をアイスクリームに練り込んだ「三八(さば)愛す♥～アフォガート風～」を作った八戸市の小松由衣さんが2年連続のグランプリに輝いた。</p>
<p>(7)</p>	<p><b>しみず食品×「実験道場」 どん焼き新商品「八戸名物☆実験どんねこ」発売</b></p> <p>八戸市の菓子製造・販売の老舗「しみず食品」は、同市出身者を中心とするパフォーマンス集団「実験道場」とコラボレーションした、どん焼きの新商品「八戸名物☆実験どんねこ」を11月3日に発売した。新商品の開発は、実験道場が人気グループDA PUMPのヒット曲「U.S.A.」の八戸バージョンを制作し、動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開したのがきっかけ。これを見たしみず食品の専務らが連携を持ち掛け、交流を深めていった。どん焼きのパッケージは実験道場が考案、口元に当てれば猫に“変身”できるようなデザインが特徴。八食センターの「創季屋」で販売している。</p>
<p>(8)</p>	<p><b>インターネット通販サイト「47CLUB」全国大会 オフィス・カワムラが最優秀賞</b></p> <p>全国の新聞社でつくるインターネット通販サイト「47CLUB」で販売する商品の中から優れた一品を決める「こんなのあるんだ！大賞2019」の全国大会が、11月19日に東京都内で開かれた。黒ニクなどを販売する「オフィス・カワムラ」（八戸市）が、通販で売り上げを伸ばすなど特徴的な活動をした出店者に贈られるショップ部門で最優秀賞を受賞した。同社は昨年、優秀賞を受賞しており、今年は約1100店の中から最優秀賞に選ばれた。</p>
<p>(9)</p>	<p><b>新東北みやげコンテスト 味の海翁堂の「いちご煮炊き込みご飯」が優秀賞</b></p> <p>仙台市産業振興事業団主催の「新東北みやげコンテスト」で、味の海翁堂（八戸市）の「八戸いちご煮の炊き込みご飯」が、優秀賞を受賞した。八戸工業大感性デザイン学部の学生がパッケージデザインとキャッチコピーを考案。風呂敷をイメージし、若い女性に人気のレトロポップを取り入れたデザインが特徴。販売価格は1080円（税込み）で、八食センターや百貨店などで取り扱っている。</p>
<p>(10)</p>	<p><b>やっと来た！ 大中型巻き網船団 サバの水揚げ1827トン</b></p> <p>八戸港で11月22日、大中型巻き網船団によるサバ1827トンの水揚げがあった。千トン超えは今季初。巻き網船のサバはスルメイカと並ぶ同港の主力で、例年10月ごろから本格化する。しかし今年は、昨年1年間のサバの水揚げ数量3万7540トンに対し11月21日現在で2866トンにとどまっており、遅れが際立っていた。待ち焦がれた大漁にハマは活気づき、漁業関係者は「これから上向いてくれれば」と巻き返しに期待を寄せている。</p>
<p>(11)</p>	<p><b>はちのヘワイナリー 新作ワイン3種発売</b></p> <p>「はちのヘワイナリー」は11月29日、南郷産ブドウなどを使った新作のワイン3種類を発売した。販売の主力は、赤の「マスカットベリー-A2018」と、スパークリングの「ロゼペディアン2018」。赤は2018年産の南郷ブドウを100%、スパークリングは75%使用した。同年産は糖度が低いことから、それぞれ発酵期間やブレンドを工夫し、複雑な風味に仕上げた。「なんぶシードル」は南郷と南部町のリンゴ5種類を使った試作品で、辛口2種類と甘口を用意した。11月28日には八戸パークホテルで記念レセプションを開催。関係者ら約200人が地元産食材のメニューと共に、待望の味を堪能した。</p>

【地域】

記事	概要
(1 2)	<p><b>「TEPIAロボットグランプリ」 工大二付属中の1年生が初挑戦で努力賞</b></p> <p>八戸工大二高付属中の1年生4人が、自動で移動して荷物を運ぶロボットを開発し、11月3日に東京都内で行われた「TEPIAロボットグランプリ」で努力賞を受賞した。4人はテキストなどで一から製作方法を学び、階段の上り下りが可能で、超音波センサーによる衝突防止システムなどを備えたロボット「Bag Carrier」を製作した。大会には、全国から選抜された10チームが出場。ロボットの操作の実演やプレゼンなどを行い、成果を競い合った。</p>
(1 3)	<p><b>火災から4年の蕪嶋神社 来年1月新社殿で神事</b></p> <p>社殿を焼失してから11月5日で4年が経過した蕪嶋神社の再建工事は最終段階に入り、12月下旬に完了する見通しとなった。新年の幕開けとなる1月1～5日には、「御白石持（おしろいもち）行事」を行い、初めて市民が新社殿を間近で見られる機会を設ける。白布に「お白石」を包んで参道の階段を上り、社殿本殿の後方にある「玉垣」にお白石を敷き詰めて奉獻する神事で、伊勢神宮の遷宮でも行われたもの。市民の参加も可能で、お白石を奉賛（奉賛金1個千円）する。新社殿は、3月26日の例大祭に合わせて一般公開される予定。</p>
(1 4)	<p><b>絶滅危惧類の「ムラサキ」 八戸公園で種の収穫作業</b></p> <p>11月21日、八戸市十日市の八戸公園では、本格的な冬の到来を前に、職員らが植物「ムラサキ」の種の収穫作業に当たった。ムラサキの根は「紫根」と呼ばれ、古くから漢方や紫色の染料として用いられ、元々青森県南地方に広く自生していたが、明治時代以降に激減し、現在は環境省レッドデータブックの絶滅危惧IB類に指定されている。この日は複数の種が付いたムラサキの葉と茎を刈り取り、根は後日収穫し、種は来年の春に植える予定。</p>
(1 5)	<p><b>八戸工業高3年の11人 金属熱処理2級に全員合格</b></p> <p>青森県立八戸工業高3年の11人が、金属熱処理の技能検定2級に挑戦し、全員が見事合格した。金属熱処理とは、金属を熱したり冷やしたりして、さまざまな性質に変化させることで、金属熱処理技能士はその能力を認定する国家資格。技能検定は、鉄鋼などの材料に関する知識や技能を問う内容で、筆記問題と実技試験を行う。2級に挑んだのは同校創設以来初めてで、県内の高校生による2級合格は初の快挙となった。</p>
(1 6)	<p><b>人気イベント「種差朝ヨガ」 通年化を模索</b></p> <p>種差海岸で朝にヨガを体験できる「種差朝ヨガ」の通年化に向け、地元の関係者が試行錯誤を続けている。種差朝ヨガは2015年にスタートし、5月下旬から9月下旬までの毎週土曜日に種差天然芝生地で実施している。5シーズンが経過し定着しつつあり、参加者が100人を超える日もある。リピーターも目立ち、市外から参加する人も多いという。こうした状況を踏まえ、関係者は通年化を模索。オフシーズンは室内を利用し、年間を通した活動の展開を目指す方針である。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p><b>全日本剛柔流空手道選手権 漆畑さん(旭ヶ丘小)が頂点</b></p> <p>10月20日に仙台市で行われた第19回全日本剛柔流空手道選手権で、八戸市の高橋道場所属の漆畑夏音さん(市立旭ヶ丘小3年)が、形試合の女子小学低学年の部で頂点に立った。この選手権には東日本を中心に、小学生から一般まで男女355人がエントリー。形、組手のそれぞれで、学年や体重で分けられたトーナメントで頂点を争った。漆畑さんは、緩急をつけた丁寧な動きを心掛け、念願の優勝を手にした。</p>
(18)	<p><b>～「えんぶり」の記録 次世代に～ 各えんぶり組の歴史、特色などの調査を開始</b></p> <p>八戸市教委などは、本年度から各えんぶり組の本格調査をスタートさせ、2022年度までの4か年にわたり、現存する45組を対象に各組の歴史や特色、活動遍歴などを調べる。東北地方の民俗文化財担当の学芸員らが調査員を務め、各組に眠る伝統の舞、かつて存在した行事なども調査。最終の2022年度は報告書を作成、刊行する。市教委の担当者は「これまでは不十分だったえんぶりの記録を残し、将来に引き継ぎたい」としている。</p>
(19)	<p><b>元鯉中校長の木村久夫さんが「八戸聞見録の謎」自費出版</b></p> <p>元八戸市立鯉中校長の木村久夫さん(78)が、「八戸聞見録の謎ー遠来の青年教師を巡る八戸の群像ー」を自費出版した。八戸聞見録は、1881年に明治天皇が八戸巡幸した際に献上された、八戸地方初の地誌。著者は当時三戸郡公立中学で教員長を務めた、福岡県出身の渡邊村男。渡邊が八戸に滞在した期間はわずか2年で、短期間で八戸に関する詳細な知識をどのように得たのか木村さんは疑問に思い、研究を深めていった。明治時代の八戸を知ると同時に、当時の人々が地域振興に熱い思いを持っていたことが分かる内容となっている。</p>
(20)	<p><b>2025年国民スポーツ大会冬季大会 青森県が受け入れ表明</b></p> <p>青森県の三村申吾知事は11月28日、2025年の第80回国民スポーツ大会(現・国体)冬季大会の受け入れを表明した。2025年は本大会の県内開催が決まっており、冬季大会も開催されれば、県内では1977年以来2度目の完全大会(完全国体)となる。県は来年6月に日本スポーツ協会と文部科学省に冬季大会の開催申請書を提出する予定で、承認されれば7月ごろに開催が内定する見通しである。</p>